

【出題意図】

総合型選抜の小論文は、「大学の講義のミニ体験」だと考えて下さい。

動画(講義の代用)を視聴し、「内容を理解できていること」、「理解した内容を自分の経験や身の回りのことと結びつけて考えられること」、これらが評価対象となります。

◆みているポイント◆

・問 1 は「理解力」：動画の内容を正しく整理し、記述できるか

問 1 には“正解”があります。動画の内容を正確に理解し、短くまとめ、伝えることがポイントです。動画の中の重要な部分を 200 字で正しくまとめてください。

・問 2 は「考える力」：動画をきっかけに、自分の体験や社会の出来事とつなげ、深く考えられるか

問 2 には“正解”がありません。動画の内容を出発点にし、自分の体験や社会の出来事と結びつけながら、自分なりの考えを深めてください。どんな視点で書くかは自由ですが、動画の内容を土台にして、自分の発想を順序立てて書くことが大切です。

◆書くときの注意点◆

1. 動画内容と関係のある話を書きましょう！：動画と関係の薄い話は、ただの「自分語り」になってしまいます。

2. 自分の体験を書いたら、必ず動画の話に戻りましょう！：体験を熱く語りすぎて、動画内容との関連が尻切れトンボにならないようにしましょう。

以上のことから、問 1 と問 2 では、求められている文章が異なります。問 1 は「正しくまとめる」こと、問 2 は「広げて考える」こと、これらの違いを意識して、上手に書き分けてください。

出題年度：2024 年度

【模範解答】

<Ⅱ>

問 1

- ① エビングハウスは自分を実験参加者とし、記憶と保持時間との関係を調べた。無意味綴り 13 語からなるリストを 196 リスト覚え、一定の保持時間をあけ、各リストの全項目を思い出せるまで再学習を行った。その結果、学習から時間が経つほど節約率は低下した。節約率とは、最初の学習に要した時間と比べ、2回目の学習に要する時間を節約した率である。節約率は1日経つと大きく下がるのが特徴である。(186 字)
- ② 記憶の情報処理アプローチとは、ヒトの認知機能のはたらきを、コンピューターの動き方にあてはめる考え方である。Melton(1963)は記憶のシステムについて、「符号化」、「貯蔵または固定」、「検索」の3つをあげた。「符号化」は視覚や聴覚等感覚から入力された情報を記憶システムに取り込む処理、「貯蔵または固定」は符号化された情報を記憶痕跡として保存する段階、「検索」は覚えた情報を思い出すことをさす。(199 字)
- ③ 小林(2021)は、単語の絵を描く描画条件・単語を書きとる筆記条件・単語のイメージを想像する想像条件のいずれかで単語を覚え、思い出す記憶テストを実施した。結果、筆記や想像条件よりも描画条件の記憶成績が最も高く、描画が記憶を促進した。描画が記憶を促進する理由は、手を動かす「運動」、ものごとをより深く観察・処理する「精緻化」、絵が目に入る「視覚」という3つの要素が含まれているからだ、と考えられている。(200 字)

問 2

【採点ポイント】 ※出題意図にて記載の通り、“正解”はありません。

- ・映像やこれまでの経験を基に、自分に効果があった記憶の促進方法を具体的に呈示できている。
- ・提案した記憶の促進方法が効果的である理由を説明できている。
- ・その際、「忘却曲線」、「テスト効果」、「描画(運動・精緻化・視覚)」による記憶の促進について書かれていると望ましい。
- ・併せて自分なりに工夫した体験が述べられていると、さらに良い。